



基本動作の徹底・定着に向けた取り組み

サ総エリア拡大を契機とした新たな「無事故“0”」への挑戦

西日本システム建設株式会社

1. はじめに

西日本システム建設株式会社（以下、「SYSKEN」）は、平成23年10月に宮崎での共架柱の建替工事において「移設待ちの間での地絡・停電事故」を発生させました。

また、この事故が「防護があれば電力線に少し接触しても大丈夫だろう…」という意識から「絶対、電力線に接触してはいけない」という安全に対する考えへと大きく変わるきっかけにもなりました。

それ以前に、平成22年8月と23年3月にも地絡・停電事故を起こしており、3件連続した事故により、地域住民の方や電力会社へ多大なご迷惑をお掛けし、NTT様の信頼を失う事態になりました。

そこで、平成23年10月に「非常事態宣言」を発出し、二度と地絡・停電事故を起こさないために各種施策を現場第一線まで浸透させてきた結果、現在まで同様な事故は発生させていません。

しかし、平成24年7月のサ総エリア変更に伴い、大

幅な組織見直しと新たな協力会社の参入により、これまで取り組んできた各種施策展開の維持・拡大と、さらなる現場第一線までの落とし込みの徹底が重要課題となってきました。

今回は、これまで取り組んできた「基本動作の徹底・定着」に向けた各種施策および新たなSYSKENグループが一体となって「無事故“0”」へ挑戦している取り組みについて紹介します。

2. 安全への基本的スタンス(行動指針)

SYSKENでは、「基本動作の第一線への落とし込み」の基本的考え方として三現主義の徹底を掲げ、まずは「現場に足を運び、現物を確認し、現実を見て、事実を知り改善」をモットーとして、何事にもSYSKENグループ全員で一体感をもって実行することを心がけて取り組んでいます（図1）。

3. 平成24年度設備事故防止計画

■基本方針

1. 正しい手順を遵守し設備事故撲滅を推進しよう
2. 常に危険を予知しリスクを低減する行動をしよう
3. 異常時は作業を中止し速やかな情報連絡を徹底しよう

重点施策

<作業工程ごとの作業指示を復唱し、リスクを排除しよう>

●地絡事故防止

- * 新設共架柱と電力設備との離隔確保
- * 電力線への防護カバー等、装着状況の事前確認の実施
- * 共架柱撤去作業時、原則切断の実施
- * 安全作業が確保できない場合の作業中止

●誤切断・誤接続防止

行動目標

何事にもSYSKENグループ全員で
一体感を持って実行！

◎基本に忠実かつ着実に一人称で業務遂行

◇脚下照顧の実行

（自分を良く見よ！ 基本を大切にせよ！）

◇三現主義の徹底

- ・「現場」に足を運び、場を確認
- ・「現物」を手に取り、物を確認
- ・「現実」をこの目で見て、事実を知り改善

◎SYSKENの新たな価値の創造

危険を先き取る心の目
リスク排除で設備事故の撲滅



図1 行動目標



- * 専用工具、適正工具の確実な使用
- * 確実な線番確認と最終確認試験による誤接続防止
- * 手順書による確実な作業の実施（相違時の一時中止と再確認）

●埋設物損傷防止

- * 調査、施工時の設備図面等と現場の照合
- * 埋設物近傍は手掘り遵守による埋設物確認の実施
- * 埋設物確認が難しい場合の管理者への確実な立会要請

●専用回線故障防止

- * 切替対象回線と借用（断線）時間帯の事前確認の励行
- * 回線借用時間の遵守と作業前後および作業中の確実な連絡の実施
- * 適正試験器による切替前後の回線試験の実施

4. 新たな安全管理体制の確立

平成24年6月までは、沖縄を除く九州7県に3支社7アクセスセンタを配置していましたが、7月のサ総エリア変更により熊本・大分・宮崎の3県となり、アクセス部門社員のほとんどが新たなエリアへ異動し、新たに約30社の協力会社も加わりました。

そこで旧エリアにおける継続工事の安全品質管理体制も維持しつつ、新エリアへ安全専任者を増強し現場指導体制の充実・強化を図っています（図2）。

5. これまでの取組み

(1) “施工状態（離隔状況）の見える化”

「施工状態写真により不安全状態の解消」

当社においては、過去に電力線と新設電柱の接触による地絡事故を起こしてしまいました。

このような事故を二度と繰り返すことがないように、安全品質管理部・品質管理センタにおいて施工状況の出来高検査を行う際、電力線との接触がないかを、現場から送信させた共架柱建入後の新設柱と電力線の離隔状況写真で確認し、現場第一線での事故のリスクヘッジと施工品質を担保する取組みを行っています。

運用定着に向けては、当日の作業予定表を基に、写真送付状況を確認し、未提出施工班への写真送付の指示・指導を行い、送付漏れの防止を図っています（図3）。

(2) VKYにおける作業指示内容のデフォルト化

施工班に対して地絡事故防止を反映したVKY時のデ

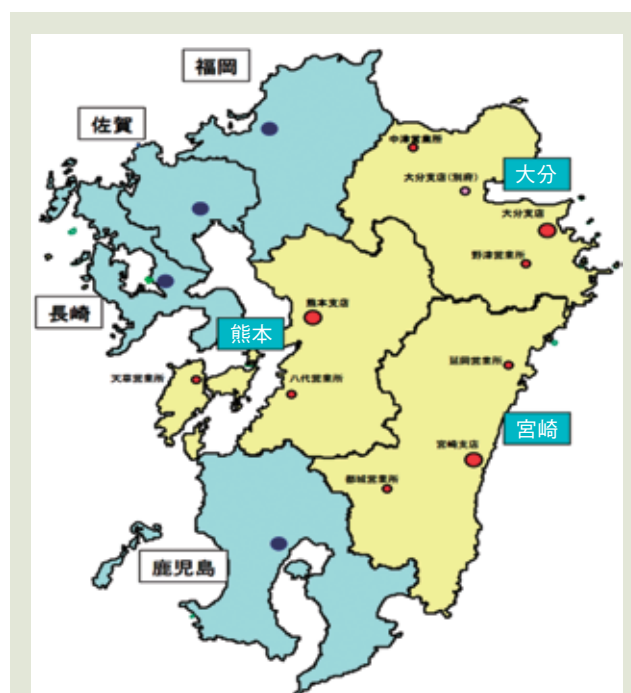


図2 現場指導体制の充実・強化

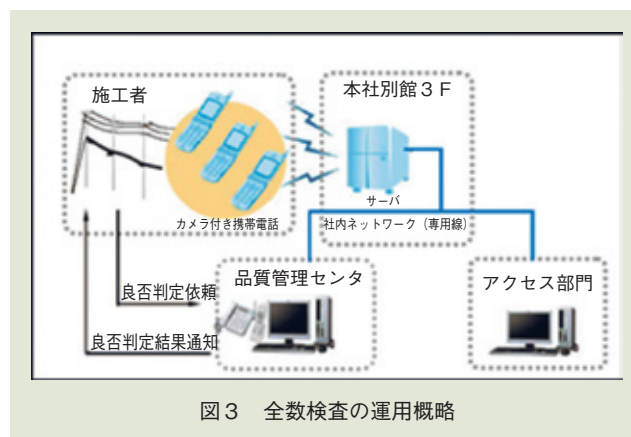


図3 全数検査の運用概略

フォルト項目【共架柱建替編】のパウチ版を作成・配布し（図4）、具体的内容、役割分担を明確にし各作業員へ指示、2WAYコミュニケーションにより相互確認を行っています。

(3) 迅速な情報伝達とSYSKEN対策の指示

NTT様のEGナレッジシステムから発信される事故情報を受信後、速やかにSYSKEN本社安全品質管理部よりSYSKEN各支店・事務所の幹部および関係者へ、また協力会社責任者等へドコモ様のモバイルー斉連絡システム「呼び出し君」を活用し、事故情報第一報の共有とともに注意喚起を行っています。

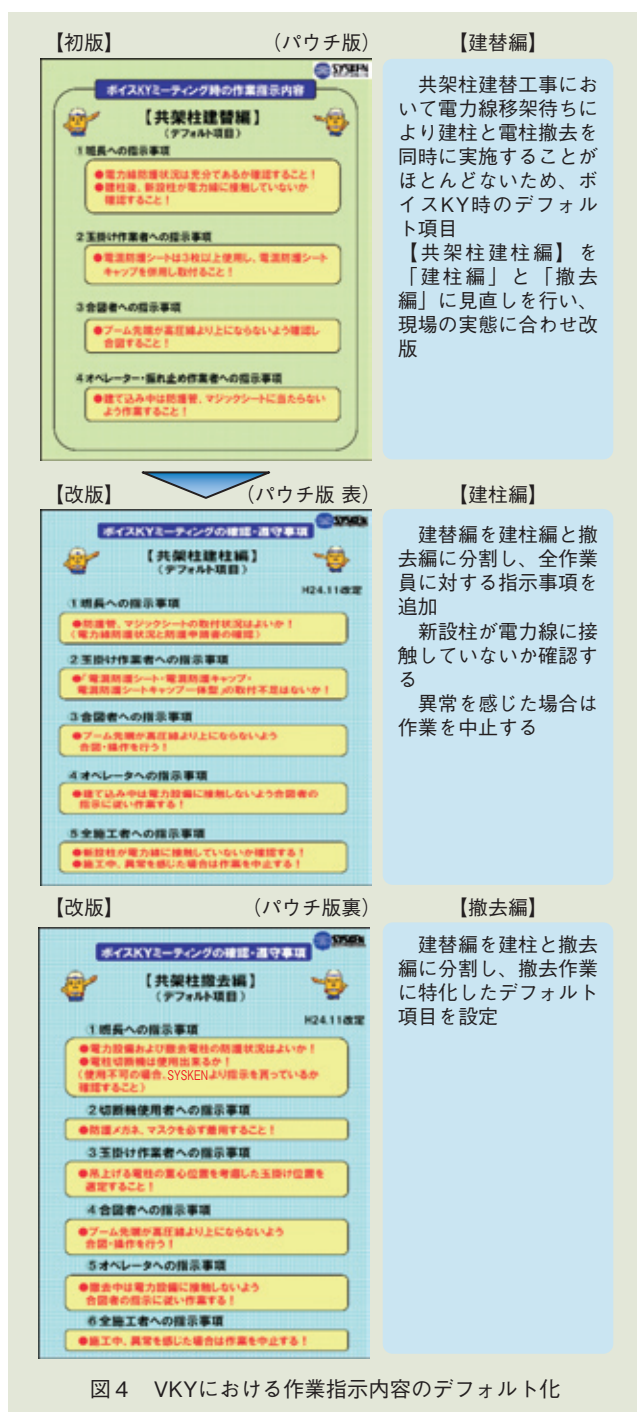


図4 VKYにおける作業指示内容のデフォルト化

さらには具体的なSYSKEN対策を現場第一線まで落としこむ「他山の石」作戦、各支店で毎月1回開催する「安全品質会議」および「安全確認日」の場を通じて再周知・再確認等を実施しています(図5)。

■Step 1: 「呼び出し君」での第一報の発信(約300名)
・ドコモ様のモバイル一斉連絡システム「呼び出し君」を活用した事故情報第1報の発信

・対象者: SYSKEN本社関係幹部、各支店長・管理者、各協力会社責任者等

■Step 2: 「他山の石」作戦の展開

・事故概要の周知とともに類似事故防止に向けた具体的なSYSKEN対策を指示
・協力会社作業員は事故事例を自分に置き換えて、「私ならこうする」を作成

■Step 3: 事故内容の再周知とSYSKEN対策の再確認

・各支店で協力会社責任者を交え、毎月1回実施する「安全品質会議」および「安全確認日」で事故内容の再周知とSYSKEN対策を再確認

(4) 過去の事故を風化させない仕組みづくり『忘れていませんか?』

当社におけるこれまでの事故を知り、事故の悲惨さや与える影響など、安全の大切さを再認識する仕組みとして過去の事故発生日に『忘れていませんか?』シートを発出し、再発防止策の再確認を行いながら事故防止に努めています(図6)。

(5) 現場を賞賛する仕組みづくり

—『安全ポイントカード』の導入—

■背景とねらい

当社は従来から現場パトロール時の指導方法として、4種のカード(ゴールド、ブルー、イエロー、レッド)を活用し、主に現場の不備不適事項に注目した指導方法を行っていましたが、安全に対する現場第一線作業者の安全意識・やる気を起こす施策として新たに「安全ポイントカード」方式を平成23年7月から導入しました。

ねらいは、現場の具体的な行動に焦点を当てその場で賞賛することにより、安全行動を習慣化させることにあります。

■概要

協力会社(アクセス・ユーザ系)の全班長に「安全ポイントカード」を発行し、毎月の「決められたテーマ」がきっちりと現場に浸透している施工班には、パトロール点検者が「安全ポイントカード」にポイントを付与。

またそれ以外でも自ら工夫・改善して取り組んだ場合もポイントを付与し、ポイント数が貯まると副賞と表彰を行う。

毎月のテーマは、パトロール結果を踏まえ、多かった指摘や全国的な多発事故に焦点を当て「月間重点テ

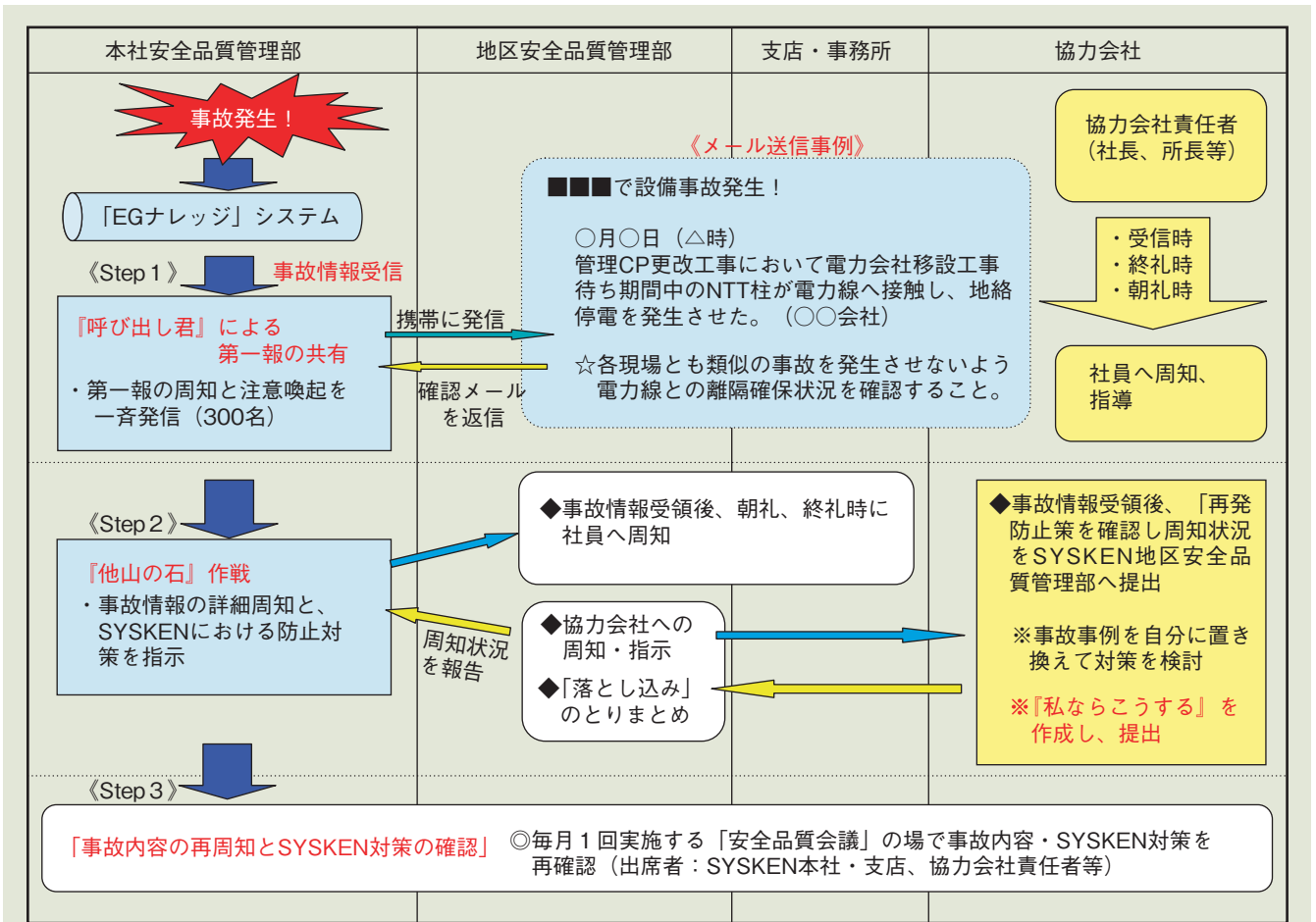


図5 事故情報の流れと現場までの落とし込み

忘れていませんか?! 発行平成23年1月31日

4年前の2月1日、SYSKENで重大事故が発生しました。
事故を風化させないよう再発防止の取り組みを再確認して実践してください。

ケーブル移架作業中、バケットから転落し重傷を負う事故発生!

発生年月日	平成19年2月1日15:44頃	発生場所	別府市（西別府幹25号柱）
被害状況	腰椎骨折入院治療3か月		
事故の概要	◎管理CP建替工事において、既設柱から新設柱へのケーブル移架作業において、張線器を取り付け張線器を両手で締め上げる際、ハンドルから手が滑ってバランスを崩し、バケットから転落し負傷した。		
事故の原因	◎バケット部のフック掛けに補助ロープのフックを掛けていなかった。 ◎両足で踏ん張り、全体重をかける不安定な体勢で作業を行った。		

“これだけは守る” 再発防止対策 《命綱の掟10か条》の習慣化は出来ていますか？

◎高所作業車の作業では、本ロープまたは補助ロープのフックをバケット部のフック掛けに必ずかける
 ◎現場が変われば、その都度、ボイスKYを行い、危険予知と適切な作業指示を行う

図6 「忘れていませんか?」シート（A4判・タテ）



図7 安全ポイントカード：3つ折りタイプ

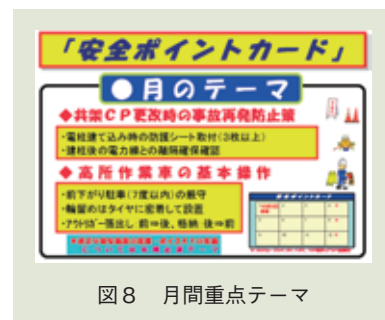


図8 月間重点テーマ

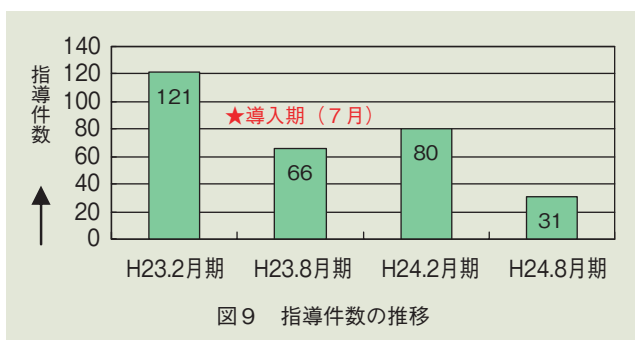


図9 指導件数の推移

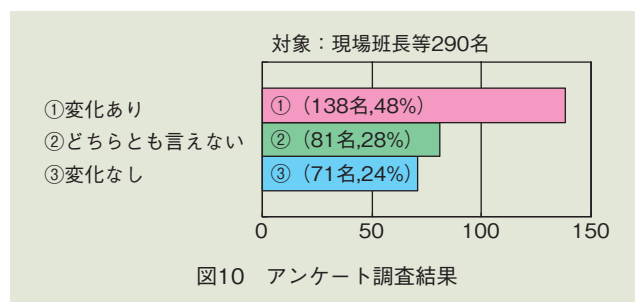


図10 アンケート調査結果

マ」を決定、毎月テーマを変えることで安全意識の定着化を図っています(図7・8)。

■これまでの成果

現場パトロールにおける指導件数は、導入期(H23.7月)に比較し減少傾向にあり、徐々にその成果が表れるようになりました(図9)。

■アンケート調査結果

◆「安全ポイント制度」を導入して安全に関する意識が変わりましたか？(図10)

①変化あり

- ・ 不安全行動でペナルティを受けるより、良い仕事をし、ポイントを貰った方が気持ちよく働けるから
- ・ 月々で再認識し、班員全員で安全作業ポイントを考えるようになったから

②どちらとも言えない

- ・ ポイント制がなくても常に安全に気をつけているから

③変化なし

- ・ 安全に対する重要性は変わらないので、ポイント制度

に変わっても変化ないから

(6) 安全パトロール結果の「見える化」

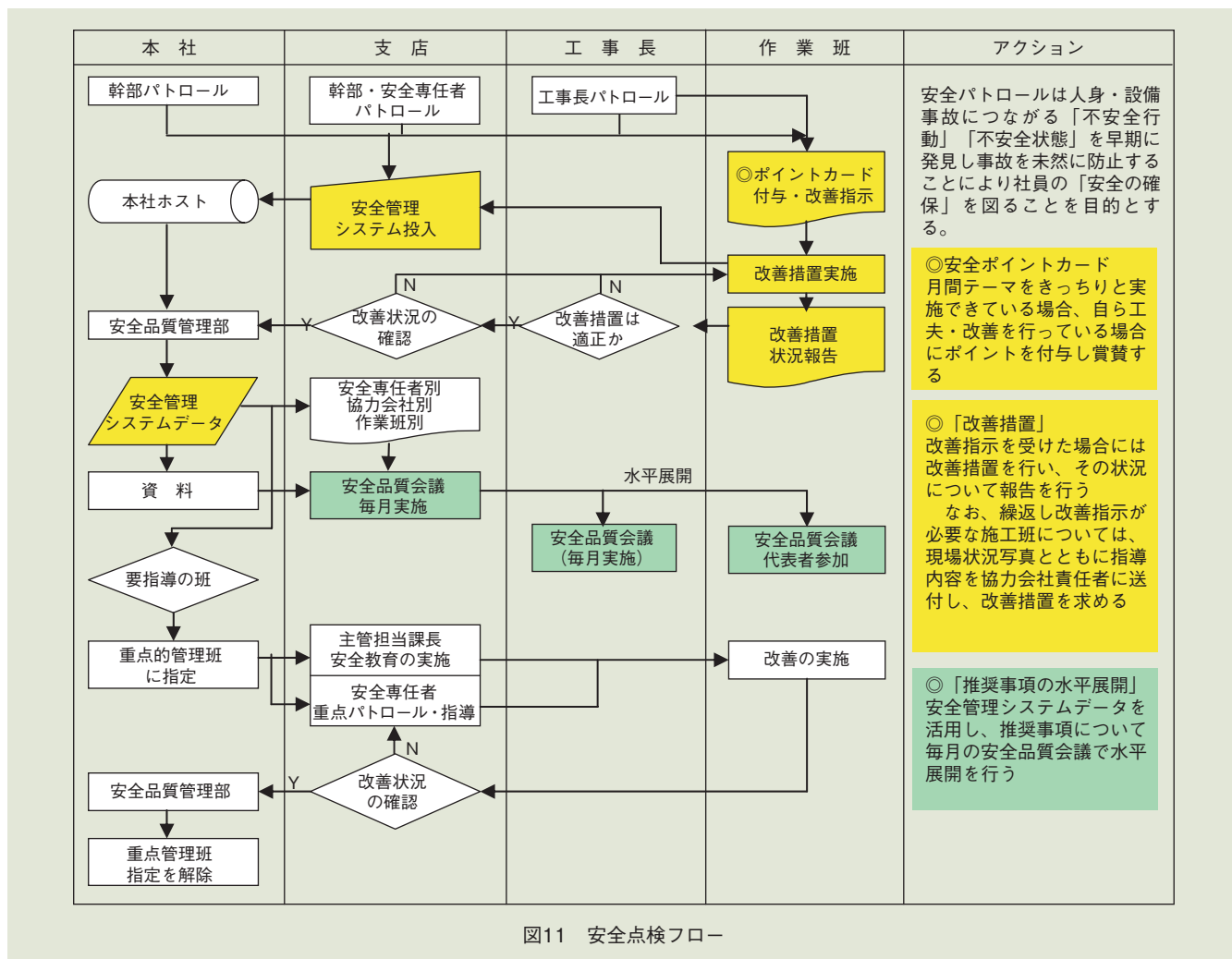
■安全パトロール結果の「見える化」について

安全専任者・工事長・幹部等による現場パトロール結果(賞賛事項、安全ポイント付与、指導内容および措置状況等)については、当社安全管理システムに投入のうえ、毎月の「安全品質会議」において共有を行っています。

また、繰り返し指導を受けた施工班については現場状況および指導内容について協力会社責任者に直接送付し、改善措置と再発防止策の提出を求め、指導事項の繰り返し防止を図っています(図11)。

(7) 「作業連絡表兼作業指示書」による高所作業車使用時の基本動作指示

高所作業車を使用する場合の具体的な指示として、日々施工現場で確認する作業指示書へ【高所作業の基本操作】の具体的な指示事項を示すことにしました(図



12)。ただし工事長から作業班への作業指示は全員が同じ内容とはならないことから、高所作業車を使用する作業班へは、スタンプ方式による作業指示を導入しました。工事長が実際に協力会社へ作業指示を行う際に、【高所作業の基本操作】の項目へチェックを行うだけでシステムにより自動的に作業指示書へ反映できるようにしています。併せて、実際に協力会社が使用している高所作業車へも、何が危険か一目で解るようにシールを作成し、操作盤の近くに貼付し事故防止に努めています (図13)。

6. 新たな「無事故への挑戦」

■『0災バトンリレー』の導入

平成24年7月のサ総エリア変更に伴い、協力会社もこれまでの10社から40数社に増え、さらなる連携が必

要となったことからそれぞれの会社が1カ月単位での無事故を達成すべく自ら考え、実践した結果を0災旗に託し次の会社へと引き継ぐ『0災バトンリレー』をはじめました。

■現場班長への出前研修

現場作業でのキーマンは「現場班長」と位置づけ平成24年7月のサ総エリア変更を機に現場班長との対話を主体とした「出前研修」をはじめました。

日々、多忙な現場班長との時間確保が難しい部分もありますが、協力会社の朝礼時・終業時、毎月の「安全確認日」、現場パトロール時等を捉えながら取組みをスタートしました。

安全作業を行ううえで現場班長が特に力を入れているところ、困っていること、元請けであるSYSKENへの要望、さらには最近の事故事例・SYSKEN対策等につ



現在、熊本・大分・宮崎の3支店で13グループに分けて「0災バトンリレー」実施中！



現場班長への出前研修



現場パトロール時の班長との対話

としているものです。

平成24年度の優良事業所として、全国で7社が選定され当社も表彰されました。

きめ細やかで高品質なサービスを提供し、信頼される技術と品質に裏付けされた総合エンジニアリング企業を目指して参ります。

7. おわりに

SYSKENは、おかげ様で現在60期を迎え『NEW SYSKEN』のスタートの年として「安全はすべてに優先する」ということを経営の最重点課題として取り組んでいます。

また、サ総エリアの変更に伴い、慣れないエリアで新たな仕事のやり方にもチャレンジしているところですが、

- ① お客様にご迷惑をおかけしない
 - ② NTTグループ様にご迷惑をおかけしない
- を合言葉に、安全をより徹底することで従来にも増して



授賞式にて